

人文社会学部 社会学科

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

社会学科は、個人から社会全体にいたる複雑な諸相に対して、客観的かつ多角的にものごとをとらえ、さまざまな課題の発見と理解、そして解決にむけて横断的に思考することができる、また、多様な人びとが活躍する社会の実現に向け、さまざまな価値観を認め、他者と協働することができる人材の育成を目的とします。その学びは、一人ひとりがより充実した人生を実現していくうえで重要なものです。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

1) 関心・意欲・態度

ローカルからグローバルまでさまざまなレベルで生じている個人や社会の問題に対して、意欲的に取り組み、創意工夫しながら乗り越えていこうと試みることができる。

2) 知識・技能

人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関する領域の専門的な理論や調査・分析方法を身につけ、課題解決のために活用することができる。

3) 思考力・判断力、表現力

自ら設定した課題に対して、上記の理論や方法、さらに ICT を活用して情報を収集し、さまざまな角度から論理的かつ横断的に考察し、その成果をわかりやすく表現することができる。

4) 主体性・多様性・協働性

多様化する現代社会において、さまざまな立場の存在を認めながら積極的にコミュニケーションを図り、自らの考えをしっかりと伝え、他者と協働することができる。

2. 「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

（1）教育課程の編成、教育内容

社会学科は、現代社会で活躍しうる能力・資質の形成を目指して、人間・社会、地域・メディア、心理、歴史の4コースを編成し、基礎から応用まで段階的かつ横断的に授業科目を配置します。また、4年間一貫した少人数制の演習科目を設定し、ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を実践します。

- 1) 演習：主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決する力を養います。1年次では「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次では「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3年次からの「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では2年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。
- 2) 人間・社会コース：社会学的なものの見方や考え方、調査・分析方法を身につけ、社会学の基本を学びます。1年次必修科目として「社会学概論」、「社会病理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。
- 3) 地域・メディアコース：ローカルからグローバル、メディアを媒介したものまで、人と人とのつながりを通して社会や文化を読み解く力を養います。1年次必修科目として「文化研究概論」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。上記コース同様、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。
- 4) 心理コース：人の心や行動の原理を知り、人間関係に対処する力を身につけます。1年次必修科目として「入門心理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、認定心理士の資格を取得するための科目群を設けます。
- 5) 歴史コース：歴史的事実を分析・解明し、幅広い角度からものごとをとらえる視野を身につけます。1年次必修科目として「入門歴史学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、中学校社会や高校地理歴史・公民の教員免許、博物館学芸員の資格を取得するための科目群を設けます。

(2) 教育方法

社会学科では、各授業科目の教育内容に応じて、以下のような形式を組み合わせた多様な教育方法で授業をおこないます。

- 1) 講義形式：ICTや映像資料などを活用しながら、本学科の学びに関する多様な教養や知識を身につける。
- 2) (フィールドワークを含む) 実習形式：自らの興味関心に即して課題を設定し、ICTを活用しながら調査・分析する技能を身につける。
- 3) 演習形式：主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決していく力を身につける。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーに基づいて評価を行う。
- 2) 講義や演習科目で培われた知識や技能、能力を十分に発揮できているか、学生による自己評価も踏まえ、量的側面・質的側面の両面から適切な方法を用いて総合的に評価する。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

社会学科は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関するさまざまなテーマについて深い興味関心があること
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 2) あたり前のものの見方を疑い、さまざまな角度からものごとをとらえようとする
こと
〔求める要素：思考力・判断力、表現力〕
- 3) 社会学科の学びに必要な読解力や論理的思考力、表現力を有すること
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕
- 4) 個人や社会に関するさまざまな課題に対して、他者と協働しながら積極的に取り組んでいく意欲があること
〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

入学者選抜方法における評価項目（社会学科）

入試区分	入学者選抜方法	関心 意欲 態度	知識 技能	思考力 判断力	表現力	主体性 多様性 協働性
AO入試 オープンキャンパス 参加型	「小レポート」 「個人面談」	○			○	○
AO入試 自由応募型	「個人面談」 「志望理由書」 「調査書」	○			○	○
同窓入試 (I期・II期)	「個人面談」 「志望理由書」 「調査書」	○			○	○
特別活動推薦入試	「グループディス カッション」 「エントリーシート」 「調査書」	○	○		○	○
自校・指定校制 推薦入試	「集団面談」 「調査書」	○			○	○
公募制推薦入試 前期日程	「教科」 「調査書」	○	○			○
公募制推薦入試 後期日程	「教科」 「調査書」	○	○			○
一般入試前期日程	「教科」	○	○			
一般入試中期日程	「教科」	○	○			
一般入試後期日程	「教科」 「記述式問題」 「小論文」	○	○	○	○	
一般入試 センター試験 利用入試 (I期・II期)	「教科」	○	○			
社会人入試	「小論文」 「個人面談」 「書類審査」	○		○	○	○
帰国生徒入試	「教科」 「個人面談」 「書類審査」	○	○		○	○
外国人留学生入試	「教科」 「個人面談」 「書類審査」	○	○		○	○

- ・「志望理由書」：関心・意欲・態度、協働性
- ・「調査書」：関心・意欲・態度、協働性
- ・「小論文」：思考力・判断力、表現力
- ・「記述式問題」：思考力・判断力
- ・「集団面談」：主体性・多様性、表現力
- ・「グループディスカッション」：主体性・多様性・協働性
- ・「エントリーシート」：関心・意欲・態度、協働性、知識・技能
- ・「書類審査」：関心・意欲・態度、協働性
- ・「小レポート」：表現力
- ・「個人面談」：主体性・多様性、表現力
- ・「教科」：知識
- ・「基礎教育科目の履修および授戒への参加」：関心・意欲・態度